

【基本理念】

私たち職員は、県営医療の根幹である「県民に平等な医療の恩恵を」の精神を受け継ぎ、患者さんに「誠実と医学で支える良質な医療」を提供し、地域の人々に愛される病院づくりを進めます。

秋の所信表明

院長 川村 秀司



今年は残暑の厳しさを覚悟していた夏でしたが、朝晩の涼しさは予想より早く訪れた様に感じました。台風10号で甚大な被害を受けた地域の方々においては、一時でも早く心休まる状況に戻られることを願います。

話は夏に戻りますが、今年の夏と言えばやはりリオオリンピックの話題は外せません。開催準備遅延、治安に対する不安、さらに海水汚染など不安要素は挙げれば切りが無いような前評判でしたが、開会式では演出のうまさ、シンプルな聖火点灯後の太陽を模したモニュメントなど低コストとはいえ、発想の良さから高評価を得ていました。東京オリンピックに対する期待や準備への思いがあるためなのか、リオは印象深いオリンピックになりました。オリンピック、パラリンピック閉会式での日本のパフォーマンスも次回開催国に対する期待と評価につながっているようです。パラリンピックのテーマは「心に限界を作らない」でした。選手の試合にのぞむ姿勢を見て“限界を作るのも作らないのも自分である”と心に刻み、これからは生かしていきたいと思った次第です。

最近の話題は枚挙に暇が無く、アメリカ大統領選、豊洲移転問題、横浜市の病院での患者連続中毒死、と日々ニュースが更新されています。小池都知事の議会での所信表明を一部聞いたところ、水沢出身の後藤新平の言葉が引用されていました。“あなたは「人のお世話にならぬよう 人のお世話をしよう そしてむくいを求めぬよう」に努めているか”と。その言葉から今一度都政に対するしっかりとした骨格を創り、50年、100年後の都民のために働かなくてはいけないと決意を述べていました。奥州市の将来と江刺病院がもっと良くなると希望を持てる展開を皆さんと共に創り上げていきたい、とも思った瞬間でした。改めて皆様のご協力をお願いいたします。目新しい内容は盛り込まれないにしろ、自分の信念を分かりやすく伝え、理解を得ることの大切さも感じています。最近、胆沢病院主催の『出前講座』での講演の機会をいただき「どのように最期をむかえたいか、どのように最期を支えたいかを考える」という演題名で地域の方々と膝を交えて話すことができました。医学が進んでも人生の“生老病死”の流れは変わりませんし、2025年問題も着々と迫っています。いつも同じ話を話しているようでつまらなさを感じさせてしまっているような気分でしたが、後藤新平の言葉も用いて地道に伝える事も継続していきたいと思います。中間評価も終わり、今年度の評価や振り返りを迎える時期があつという間にきます。次年度に向けても所信表明ではないですが、少しずつ来年度の目標も立てていきましょう。

来る10月1日から希望郷いわて国体が開幕します。昭和45年開催以来、46年振りの本県主催大会です。東日本大震災で開催が一時危ぶまれましたが、知事の強い意向で『オール岩手で国体を成功させよう』をスローガンに遂に実現可能となりました。会場周辺の整備も急ピッチで行われており、奥州市では7種目の競技が催されますが、それに伴い選手はもちろんのこと、競技関係者、さらには観客等大勢の人で賑わい華やかになることでしょう。当院におきましても期間内の救急医療体制の準備はできておりますが、利用しなくても良いような体調管理に努め、事故のないよう臨んで欲しいものです。私は大会期間中、花巻市で開催されるボート競技の審判のため田瀬湖に行つて参ります。岩手県ボート協会の審判員をはじめ、全国からも審判員が集結し総勢40名で業務をこなすこととなります。その他様々な役員・部署等も含めると総勢200名程の関係者で大会を支えることとなります。1つの目標に皆が一斉に集い一致団結する姿勢は感動を覚えますし嬉しく思います。是非とも成功させたいものです。11月には当院OB会があります。当院の歴史を振り返り懐かしい人たちとの語らいの時間を沢山のスタッフ参加のもとに持ちたいと思っています。皆さん時間の許す限り参加をお願いします。



防火訓練

各地に甚大な被害をもたらした台風10号が岩手を通過した翌8月31日、岩手県立江刺病院防災管理要綱に基づき、自衛消防隊組織図に定める消火班を中心に、火災発生時の消火活動を迅速に行うための実地訓練として、当院屋上にて平成28年度第1回防火訓練が職員34名参加で行われました。

火災が発生し、初期消火に手間取り延焼の恐れがあり消火班を召集、市の消防隊が到着するまで、消火栓からホースを引出して放水作業をすることを想定し、職員3名1組となり訓練を実施しました。

火災発生現場へ急行したホース先端を持つ放水係からの合図を受け、ホースのねじれを修正する中間の係が確認後、消火栓の元栓を操作する係が「元栓開きます！」などと、大きな声で手順を確認し合いながら屋上にて放水訓練を行いました。いざという時に迷わず迅速な行動がとれるよう、職員の防火意識を高めておくことが大切だと感じました。

放水準備よし！

ホースねじれよし！

元栓開きます！

消火！



院内卓球大会



平成28年6月9日～16日の6日間、昼休憩時間を利用し、第4回院内卓球大会が開催されました。部署を超えてのチーム編成であり、練習する時間もないまま即興でペアを組み、緊張しながらも、声を掛け合い楽しくゲームができました。また、川村院長、佐々木副院長、小谷地総看護師長の機敏な動きには、参加した職員一同から驚きの声が上がっていました。

3階病棟チームは、皆様の応援と少しの手加減をしてもらい(?)優勝することができました。また、試合中、部署を守ってくれたスタッフに感謝です。優勝カップは3階病棟のナースステーションでキラキラ輝いています。バンザーイ！！

(3階病棟 山本 順子)



第65回医療局開庁記念球技大会

野球、バレーボール、テニス部健闘！！

7月16日、胆沢区の胆沢野球場で高田病院と対戦しました。3年連続で初戦突破を果たし、あと一つで県大会に出場できるかと思いましたが、今年も大船渡病院に惜敗しました。今年は昨年と比べ人数も減ったのに加え、大きな存在の佐々木先生も不在の中、全員で挑みました。チーム野球ができたこと、大変うれしく思いました。

選手の皆さん、チームのみなさん、そして大勢の応援の皆さん、大変お疲れ様でした。そして、大抽選会や当日、世話係として駆けつけた事務の方に深く感謝いたします。

最後になりますが、師長会からのお志を頂き御礼申し上げます。来年は県大会を目指したいと思います。



(野球部 浅沼 秀明)



今年度のバレー部は新入部員も増え、…増員！とは行きませんでした(笑)今年11名で試合に臨みました。普段の練習では交代勤務をしている為、なかなか集まれませんでしたが、体育館を貸していただいているママさんバレーの方々に仲間に入れてもらいつつ練習を少しずつ行いました。大会当日は強豪の胆沢病院と千厩病院と試合を行い、結果はどちらもストレート負けとなりましたが、対戦相手の方々から「江刺病院は試合中、とっても楽しそうだったね」と声を掛けてもらえるほど、みんな笑顔で試合をすることができました。また、今年はユニフォームも一新となり、気持ち新たに試合をすることができました。来年も楽しくバレーをして、一勝もしたいと思います。



(バレー部 高橋 美紗)

今年のソフトテニス部は、男性2人、女性4人と例年同様ギリギリの人数で参加しました。一般女子は初心者で、壮年は女子2人で試合したため、まったく勝ち目のない試合と思われましたが、千厩病院との試合では、1-2と健闘しました。一般女子は揃って練習できなかったわりには、ポイントを何点かとることができましたし、一般男子も健闘し、2セットとることができました。壮年は3セット取り、勝つことができました。磐井病院との試合はまったく歯が立たなく、0-3でした。それでもみんな充実した汗をかき、けがもなく試合できたので良い球技大会でした。

最後に、お志をいただいた師長会、応援してくださった皆様、ありがとうございました。

来年は予選リーグ突破を目指したいと思います。



(テニス部 袖野 早苗)



救急の日

「救急の日」を記念し、9/8(木)に市民公開講座を開きました。
講座には、一般市民をはじめ近隣施設職員や江刺第一中学校の生徒さんも参加されました。

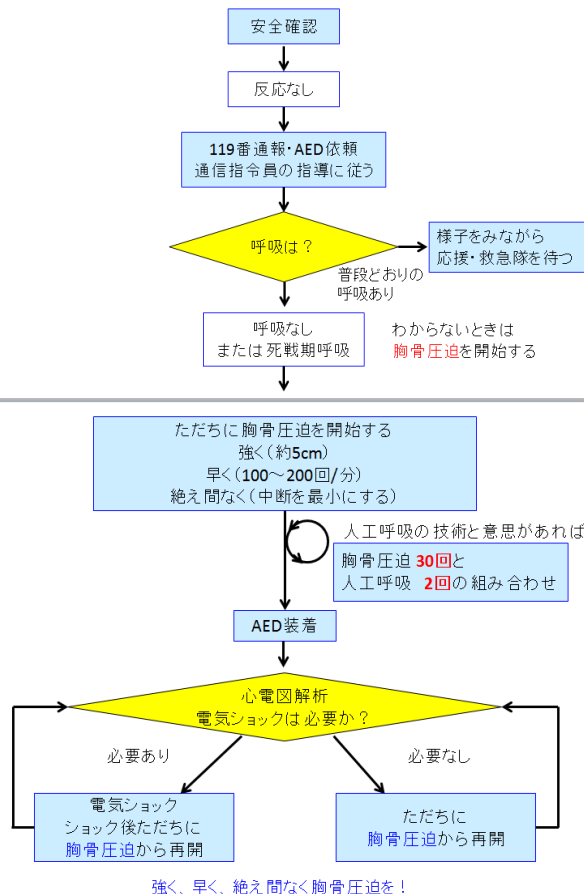
はじめに、川村院長が講師になり「心肺蘇生法＝助けるのは、あなた!!＝」と題し、救命処置の必要性を講演しました。

印象的だったフレーズは、「命が助かる一度のチャンス！何もしなければ助からない！！」。

緊迫した場面に直面したとき、いろいろな不安から躊躇してしまうと思います。ですが、心停止（意識消失）から4分間が救命できるかの勝負になります。一秒でも無駄にできません。一人では怖くても協力者を集め、みんなで救命処置をすればよいのではないかと人命救助の重要性を感じました。



市民用BLSアルゴリズム



つぎに、実技指導を行いました。各グループに分かれ、川村院長及び江刺消防署員の指導のもと、ダミー人形を相手にAEDを使った心肺蘇生法の実践を行いました。“スーパーの中だったら”“道路上だったら”と実際の状況を想定した中で、緊張感を持ち救助手順や胸骨圧迫のテンポを確認しながら実践しておりました。



いつどこでなにがあるかわかりません。

皆さんも大切な人のため、人命救助を日ごろから意識してはいかがでしょうか。